

第3回看護研究会

(中堅看護師教育研修会)

令和4年10月7日(金)

ハイブリッド開催

(受講会場：岡山県医師会館)

□ 講演

『手を用いたケアへの回帰－危機を転じて看護の真価を－』

講師 日本赤十字看護大学 名誉教授

医療法人財団健和会 臨床看護学研究所 所長 川嶋みどり先生

□ 講演

『後輩指導に活かすコーチング』

講師 有限会社 AE メディカル 代表取締役 野津浩嗣氏

一般社団法人 岡山県病院協会

(注：類似した感想はまとめています。)

第3回看護研究会（中堅看護師教育研修会）アンケート集計 （令和4年10月7日）

（ 48病院 141名出席・ 102名 回答 ）

1. 講演『手を用いたケアへの回帰 ―危機を転じて看護の真価を―』を聞いて。

（講師：日本赤十字看護大学 名誉教授 / 医療法人財団健和会 臨床看護学研究所 川嶋みどり 所長）

A.

a. 大変勉強になった	76名	c. 勉強にならなかった	0名
b. 勉強になった	26名	d. 全く勉強にならなかった	0名

B. 感想や、学べたこと・これから生かせると思ったことがあればご記入下さい。

- ・ 時流に流されず自分の看護観を貫くことに感銘をうけた
- ・ 先生の71年間の経験に裏づけされた「手」の使い「道」に感銘を受けた
- ・ ご自分の体験を昨日の事のようにお話しされるのが印象的だった。看護について自分なりに考えるようにしていきたい
 - ・ 何も起こらないことが看護、原点を振り返れた
- ・ 初心に戻ったような気持ち
 - ・ 看護の原点に立ち返る良い研修だと思った
- ・ 原点回帰しないといけないと思った
 - ・ 改めて看護師の役割や責務を考えることができた
- ・ 看護の原点に立ち戻ること、またコロナ禍において看護の必要性を再確認できた
- ・ 現在常にマスク・ゴーグル・ビニール手袋を装着し、患者さんと物理的に距離があり“てあて”がなかなか叶わない環境だが、その中でできることを探し実践するのが“看護”だと感じた。
 - 原点回帰できた
 - ・ 働いていく上でのモチベーションに生かせる
- ・ 看護の本質を思い出した
 - ・ 看護観をしっかりとって働き続けること
- ・ 自分の看護観を見つめ直す機会となった
 - ・ 看護のアイデンティティを再確認できた
- ・ 自身の看護観や看護について、改めて深く考える機会となりとても良かった
- ・ 看護師としてのあり方、関わり方が“再確認”できた。多忙の中でもできる限り時間をつくり患者さんに触れていきたい
- ・ 今病棟でも新人指導に携わることが多く、自分の看護感を見つめ直すことが最近多い。初心に戻ることができ、改めて自分のやりたい看護を続けていこうと思った
- ・ 日々の業務に追われ、自分が夢みていた看護ってなんだっただろうと考え直す機会になった
- ・ 「看護は人生の中で最高の喜びをもたらすもの」という言葉が心に残った
- ・ 普段から自分を振り返り、手で何かを感じたことがあったか、自分は何色の看護なのか、なかなか立ち止まって考えることがなかったのでよい機会になった
- ・ 業務以外にも目が向くようになり、自分の中の葛藤の答えが分かった気がした。また頑張ろうと思う
- ・ コロナを気にしすぎて看護の基本に触れることが減っていたことに気づいた
- ・ 貴重なお話が聞けて大変勉強になった。ナイチンゲールの言葉“看護師は看護に専念すべき”を聞き反省すべきことが多かった。実務は、看護というより日々の業務を熟し今日も安全に終わってよかったと感じる日々。患者に寄り添い手で看護する。初心に戻り日々頑張りたい
- ・ コロナもあり、慣れ・忙しさもあるが、やはり手は大切だと感じた。「犠牲なき献身こそ真の奉仕」→喜びが感じられる看護ができるようがんばる
- ・ 犠牲なき…は印象に残った。看護師が看護に専念できる環境づくりが必要だと感じた。なぜ義歯洗浄をまとめてしてしまうのか、オムツへ排尿するようにしてしまったのかを考えなくてはいけないと思った
- ・ コロナの中で感染防止に気をつけて、直接ケアできる方法を考えて看護していこうと思う

- ・ 業務の合間でも、患者さんに寄り添い手を使ったケアを行いたい
- ・ 患者さんに触れる、手をあてる。コロナの中、患者さんに触れること、思う看護ができず実践あるのみの言葉、考えさせられた
- ・ 看護師はリスクを含め最善の対応を提供することができる存在であることを、ケアをしながら現場の看護師に伝えることができるようにしたい
- ・ 時代は進んでいくが、いつの時代も看護の本質は変わらないということを改めて学べた。“心”を大切に“手”で伝えていきたい
 - ・ 手で伝えること・効果の重要性が勉強になった
- ・ Nsの手の重要性を再認識できた
 - ・ 手を用いた看護を忘れずに生かしたい(2)
- ・ 手を用いたケアの大切さを学んだ
 - ・ 手を当てて看護をしていかないといけないと思った(2)
- ・ 手を活用した看護を今後意識していけたらと思った(2)
- ・ 基本である手を用いたケア、看護について改めて見直すきっかけになったから
- ・ 手を用いた看護の大切さを改めて見つめ直すことができた。業務の中でも大切にしていきたい
- ・ 今一度振り返り、手を見る看護を実践していけたらと考えることができた
- ・ 手を用いて…基本的なことだが最近はできていないという気づきになった
- ・ 手を用いて1~2分でも30秒でも手をそえる・声を掛ける基本を振り返れたと思う。沈黙せずに看護する
- ・ 看護師の思いを、手を通して伝えるということを実践していこうと思った
- ・ 看護師の手の有用性について学ぶことができた。手で触れることは大切であると思った
- ・ 看護師の手の有用性・患者に触れる大切さ、触れてケアする(声かけ)大切さを改めて実感した
- ・ 手で触れる・握ることで患者様の笑顔が見られる、実際に何度も感じている。今後も看護は手からを続けたい
- ・ 「人間らしさを表出する手」という言葉が印象的で、看護というのは『手』が基本だと改めて実感した。患者さんの手を握ること・握り返してくれた強さで気持ちも伝わってくるし、同じ痛みを分かち合うということで、これからも継続していこうと思った
- ・ ごく普通の生活が送れなくなった患者さんに、専門職者の手を使って看護したいと思った
- ・ 看護師の手の有効性を改めて感じる事ができた。なにげなくしていたボディタッチが患者さんのケアにつながると信じて続けていきたいと思う
- ・ 手が人間にもたらす影響、「手」の大切さ、手当ての重要性、自分の看護観の重要性(4)
- ・ 忙しさを理由に、患者さんに手を当てる時間がないと思って過ごしていたので、意識をもって、患者さんに手を当てていこうと思った
- ・ 忙しくて患者さんに触れて看護をすることが少なくなっていると思ったので、看護師として患者さんに何が出来るか考えて看護していきたい
- ・ 手あてすることの大切さを思い出した。1分でも手を当てる、を意識して関わりたい
- ・ てあての大切さを再確認した。新人の時の気持ちを思い出した
- ・ 「てあて」を、しっかりしていきたい・意識していこうと思った(2)
- ・ 手当てをすることはアセスメントにもなり、安楽を与えることであり、優れた看護を行うために必要
- ・ 手を使うという基本から少し遠ざかっている自分に気がついた。て・あてを心掛けたい
- ・ 看護師の手をしっかり使用し、患者の心に寄り添った看護を提供していきたいと思った
- ・ 看護学生時代に習った「生活行動援助」がやはり基本であり、その中でも手を用いた「手当て」「看護」が一番大切なのだと改めて思った
- ・ 手で触れながら話しかけ、手を用いたケアをしていけるよう、一つひとつのケア時に考えながらしていく
- ・ 外来勤務の中、短時間で手を用いたケアがどうできるか、振り返り考える良い機会となった
- ・ 🍵看護師はこの世で最も喜びを感じられる職業である。…熱布のバックケア・ワンセットケアを舌根沈下気味の患者さんに行ってみようと思う

- ・ “手”を通じて体の声を聞く。看護師は暮らしの目線を忘れず看護実践を行う
- ・ 癒やし体の声を聞くことのできる看護の手を学び、意識して実践していきたいと思った
- ・ 忙しい業務や沢山の記録に追われている中でも、少しでも患者さんに手をあてて寄り添う、話を聞く時間を作りたいと改めて感じた
- ・ 多忙でなかなか1人の方に時間を割いて関わることができないため、少しでもいいので患者さんに触れて看護をしたい
- ・ 電子カルテではないが、毎日記録に追われている状況。高齢患者が多いので、手を握ったり体に触れたり、時には肩をたたいたり、なるべく手を当てることをしている
- ・ 自身の看護を振り返ると、パソコンと向き合う時間が多く、業務をただこなして次の勤務に引き継ぐ流れ作業になっていると感じる。患者さんに手を当てる訴えを読み取ること、声ならぬ声を聞くこと、自分の看護を振り返ることを大切にしていこうと思った
- ・ 電子カルテ、自動血圧計などの導入で患者さんの顔を見ない・体に触れない(脈を触れない)、そんな看護師が増えたと日々感じていた。手で触れることの大切さに改めて気付かされた
- ・ HCU勤務だが、モニターやデータばかりに気持ちが向いて患者に触れフィジカルアセスメントをする機会が減っている、と後輩に話した矢先の研修だったので、とても感慨深く聴講した
- ・ パソコンのデータばかり見ず、患者さんに触れて訴えを聞いていくことで安楽な看護提供ができると思った
- ・ 安楽の提供がお節介にならないよう気をつけたいと思う
- ・ ケアの内容がスタッフ優先になっていないか、見直すきっかけとなった
- ・ 患者さんの側に行き、安心できるような援助ができるようにして行きたいと思う
- ・ 患者様のそばに行き、看護師としてケアを行うことで安楽に過ごしてもらうように努めることが医療の中の看護の必要性だと思った
- ・ 認知症をもつ患者が人間らしくある実感が得られる＝尊厳の保持に努めたい。安心・安楽を与える手を私は持つ、用いて愛を伝えたい!!
- ・ 安心感を与えることにより、副交感神経が優位になり、免疫力アップすること
- ・ 過去に医療安全を優先するあまり何もしないことがあったのを思い出した。今の病院では、肺ケアや、患者の筋緊張を和らげるために触れて微振動を行うことで緊張がほぐれてリハビリができるようになるなど、実際の看護を振り返りながら改めて「手で触れる」ことの重要性を感じた
- ・ タッチングのケアは新人の頃から大切にしてきたことだった。ご講演で、看護師の手がいかにか患者さんの自然治癒力を高めるかということが語られていた。今後も大切にしていきたい
- ・ パソコンやロボット化など時代が変化している中、ケアでは手を使うことがとても大切だと改めて感じた！ありがとうございました！
- ・ 患者さんは病気の苦痛だけでなく、日常生活やその動作からくる身体的・精神的苦痛があると感じた。今後患者さんにしっかり触れながら、精神的にもリラックスしてもらえるようにケアしていきたい
- ・ “看護は看護”他職種と協力して患者さんと触れあえる時間を意識して作っていきたい
- ・ ミニカンファで事例をあげているが、患者の情報共有に過ぎないので、ケアに関して意見交換をしていきたいと感じた
- ・ 新人・後輩への育成・指導の必要性、手を使った看護の重要性を学んだ
- ・ 医療安全上で、実践中に起こってしまうインシデント・リスクを回避するために手を出さなければ等、とても分かるが悩んだ

2. 講演『後輩指導に活かすコーチング』を聞いて。

(講師：株式会社 AE メディカル 野津浩嗣 代表取締役)

A.

a. 大変勉強になった	81名	c. 勉強にならなかった	1名
b. 勉強になった	18名	d. 全く勉強にならなかった	1名

未記入1名

B. 感想や、学べたこと・これから生かせると思ったことがあればご記入下さい。

- ・ とても分かりやすかった
- ・ 実践的なことが学べたと思う
- ・ 実践に役立つコーチングをありがとうございました。今まで何度も勉強会に参加しているが、アウトプットすることが難しく困っていた。Zoom ワークがあり、有意義な意見交換や実際体験して学びを深めることができた。明日から部下を褒め倒す
- ・ 対人のスキルについて大変学べた。先生自身の話し方や手振りなどもとても参考になった
- ・ 新人に注意するときあまり刺さってないなと思った。答えが分かった気がする
- ・ 今、後輩指導で悩んでいることがあったので、実践で取り入れていけたらと思った。接し方やパワハラにならない方法など、上司にもぜひ聞いてほしい内容だったと思う。今回は個人での参加だったので、病院スタッフ皆が今回のような意識を持ってくれるともっと働きやすい職場になるのかなと感じた。ありがとうございました
- ・ 人や状況に応じてティーチング・コーチングを使い分けることが大切。改めてコミュニケーションの大切さ、聞くスキルの重要性を理解した。Iメッセージを日頃から使えるようにしていきたい
- ・ 分かりやすく理解できた。コーチングの基本が分かり、今後コーチングスキルを活用して接していきたいと思った
- ・ 聞くスキルを磨き、コーチングコミュニケーションをさらに身に付けたいと感じた
- ・ コミュニケーションが大切な職業なので、適したコミュニケーションの取り方を学べた
- ・ 上司・後輩のほめ方の言葉、自分はなかなか使えていない。コミュニケーション能力を上げたい
- ・ 聞くことや話すこと、普段考えることのないことについて、深く考えることができた
- ・ 日頃からコミュニケーションをとること。Iメッセージとして考える
- ・ コミュニケーションのとり方や「聞く」ことの大切さ
- ・ 相手に安心感を与えて、考えを話してもらえるように活かしたい
- ・ ほめること、認めること、Iメッセージの大切さ、コミュニケーションを図ってみようと感じた
- ・ 相手の話を聞くための態度や話し言葉のポイント、相手に心地よく気持ちを伝えることの重要性について勉強になった
- ・ 新人・後輩への教育、コーチング（ほめること）が学べた
- ・ 言葉の選択で間違えていたと振り返ることができた
- ・ 後輩にだけでなく、同僚や患者・患者家族にも活用できる内容でとても良かった
- ・ 新人指導だけではなく、周囲の人たちとも信頼しあっていくために必要なことが学べた
- ・ 下・上の橋渡しになれたらいいと思った。話し始めに枕詞を使用して話すことをしていきたい
- ・ 新人指導をする予定のため良かった
- ・ ほめること
- ・ 相手のペース・良い所に目を向けて、後輩と関わっていきたい
- ・ 後輩指導に生かしていく（コミュニケーションの取り方、ほめ方など）
- ・ 中堅として考えるべき指導ポイントが分かった

- ・ 新人指導に有効なコミュニケーション、指導スキル
- ・ 後輩のほめ方を工夫したり、普段からしっかりコミュニケーションをとったりしたいと思った
- ・ 相手のほめ方、パワハラにならないしかり方のスキル
- ・ 後輩指導で悩むことが多いため参考になった。習ったことを今後活かしていきたいと思う
- ・ 指導というものはとても苦手なので、スキルを少しでも学ぶことができ、これからは生かせると思った。日頃からの関係性はやはり重要ということで、我が身を振り返る良い機会となった
- ・ 後輩指導に苦手意識があった。コミュニケーションの取り方が原因と分かり、対応から意識しようと思う
- ・ 新人に関わるのが少なく、コミュニケーションも少ないので、パワハラと取られないようなしかり方を実践していこうと思った
- ・ 後輩指導に悩んでいたため良かった。Iメッセージを使用して伝えていきたい
- ・ 日頃から関係をつくることの大切さ、残りやすく分かりやすいようにほめていく必要を学べた
- ・ ほめ方にも工夫が必要なこと、指導する側も変わらなければいけないことを学んだ
- ・ 日頃自分が後輩をあまりほめてないことに気づいた。成長過程をしっかりほめていきたい
- ・ 自分が普段あまり人をほめてないに気付いた。ほめ言葉をどんどん使っていきたい
- ・ 相手に求めてしまうものが多く、ほめてあげる回数が少なかったなと思った。話し手にとって話しやすい雰囲気をつくり、声かけを行っていきたいと思った
- ・ ほめるということが大切と分かっているし、同僚や先輩には「あの子(新人)〇〇できるようになってますよ」と話すことはあっても、新人本人を直接ほめることは少ないなと感じた。後輩のためにも自分のためにも現場ではこれからほめていこうと思う
- ・ 注意することが苦手だが、今回学んだスキルを活かして、注意しないといけない場面では注意・指導していこうと思った
- ・ 後輩への声かけの仕方、褒め方がとても分かりやすかった
- ・ 相手に対して、言葉掛け一つで思いを伝える難しさが分かった
- ・ 相手にどのような感じ方をさせるか、「自分の言い方」「言葉の使い方」「話の聞き方」で全く異なるのだと思った。今後、教育にも関わる際は承認欲求や枕詞を意識してみたいと思う
- ・ 新人や後輩に対する声かけや関わり方(ほめる・認める等)がとても参考になった
- ・ 後輩をほめるときや注意するとき、活用したい・ポイントが知れてよかった(2)
- ・ あっという間の3時間だった。自分の言葉かけやコミュニケーションのとり方のくせなどにも気付いておもしろかった。新人と関わることになったので、今回のほめ方・叱り方を取り入れながら指導していきたいと思った
- ・ 効果的な褒め方についてプリセプターに伝えたい
- ・ 事実をほめて、相手の存在感を認め、私たちの役に立っているというほめ方
- ・ 承認する姿勢を意識して、学んだコーチングを活かしていきたい
- ・ 新人・後輩に対し事実承認の部分でほめることができるようになりたいと思った
- ・ 今の若い子には事実承認で声かけすることが大切だと思った
- ・ 自分が褒められるならと考えた時、プロセスを評価される方が認められたように感じるのに、後輩には結果を褒める機会が多かったように感じ反省した
- ・ 事実承認はどんな内容でも相手をほめることができるので、取り入れていきやすいと感じた
- ・ もう中堅の年ではなくなっているが、今後後輩からの相談時にはアドバイス、そしてその後の事実承認をできるのではないかと思う
- ・ 有効的なコーチング(事実承認)について納得、役立たせようと思う

- ・ 事実承認の重要性(2)
- ・ 後輩指導に承認を増やしていく
- ・ 事実承認と I メッセージの組み合わせで伝えることをやってみようと思う
- ・ 結果承認と事実承認を使い分ける。 I (愛)メッセージで相手をほめる
- ・ 心理的安全性を優先させるためには、まず自身を変革するべきと考えた
- ・ 相手を“承認”することを日々の中で意識することにより、心理的安全につながり、相手が持っている力を引き出せることを学べた。「コーチング」を実践していきたい
- ・ I メッセージの必要性
- ・ I メッセージで伝えて行くとよいことが学べた
- ・ I メッセージで相手に伝えるようになりたいと思った(3)
- ・ I メッセージを使ってスタッフをほめていけるように努力したい
- ・ I メッセージを意識し、後輩が伸びるようにコーチングしていこうと思った
- ・ 枕詞+ I メッセージ活用していけたらと考えた(2)
- ・ 枕詞や I メッセージを使うことで指導に生かしたいと思った(2)
- ・ 枕詞+ I メッセージは、後輩だけでなく同僚や患者さんに対しても使っていこうと思った
- ・ 相手を I メッセージでほめることが難しかった。栄養シャワーを注ぎたい
- ・ 「ほめる」ことは大切にしているが、自分がしていた「ほめる」は You メッセージが多かったと思う。I メッセージを意識した「ほめる」を実践していきたい
- ・ I メッセージを使用した声かけ・コミュニケーションを意識していきたいと思った(2)
- ・ I メッセージをあまり使用していなかったなので、今日からは I メッセージを使用していきたい
- ・ I メッセージはほとんど使えていなかったなので、言うことに恥ずかしさもあるが「助かった」など言いやすいものから慣れて発していきたいと思う
- ・ 自分のコミュニケーションは You メッセージが多くなっていることに気付いた。I メッセージの活用を心掛ける
- ・ 日々 You メッセージの方が多く、I メッセージが心に残り、今後に生かしていきたい
- ・ You メッセージが多いことに気づいた。I メッセージを使ってラポールがかかっている状態の職場にしたいと思った
- ・ ラポールをうまく使いながらコミュニケーションができるようにしていく
- ・ ラポール形成のために相手の名前を呼ぶとか声のトーンを合わせる、はすぐに使えるスキル
- ・ ラポールを形成するために、日頃から良好なコミュニケーションを取る必要がある。聴くことの大切さ。I メッセージの活用
- ・ 今まで指導を受ける立場だったが、これからは指導する立場になるため、学んだ I メッセージを身につけて後輩に声をかける習慣をつけたいと思う

3. 今、悩んでいることは何ですか？ また、今回の研修で何かヒントになることがありましたか。

- ・ スタッフのモチベーションアップ
- ・ 職場の仕事内容や待遇
- ・ 人に与える印象を良くしたいと思っているが、顔に出てしまって上手くいかない
- ・ 環境が変わっても、それにめげることなく対応し続けること
- ・ 看護観をもう一度再認識し看護に生かしていきたいと思った。とても学びになった
- ・ 自分の看護観、後輩指導に必要なことを見つけることができた
- ・ 自分自身のメンタルヘルスをどう保つかが課題
- ・ 自身の体調管理、日常業務の優先度

- ・ パワハラにならない教育方法を学ぶことができてよかった
- ・ 後輩指導に悩んでいたのも、とても参考になる講義だった
- ・ 後輩が指導を聞き流していると感じることがあるが、枕詞を有効的に使っていききたいと思う
- ・ 指導することの難しさ。中堅職員としてもっと成長しないと
- ・ まさに新人指導に悩んでいる。この学びをとりあえずやってみようと思う
- ・ 1~3年目の指導について悩んでいるので、今回の研修内容を実践してみたいと思う
- ・ 新人・後輩への指導・伝え方。自分を基準として考えてはいけない
- ・ 新人に対応するときに、特に自分も気を張ってしまい、空気から悪くなってしまう。声のトーンから意識してみようと思う
- ・ 新人に近い同僚に日頃からどのように接したらいいか悩んでいたが、コーチングの仕方が参考になった
- ・ 今の指導方法に加えて、原点を振り返りながら、承認の技術を使っていききたい
- ・ 後輩もどンドン年齢差が出てきているので、研修を参考にしようと思った
- ・ 後輩への指導法、先輩への注意の仕方
 - ・ 新人・後輩への教育、業務改善、効率化
- ・ 後輩への関わり方やケアの本質
 - ・ 後輩への声かけ（注意の仕方等）(3)
- ・ 注意することに抵抗がある
 - ・ 後輩育成(2)
- ・ 後輩への注意の仕方。Iメッセージを使っていく
- ・ 後輩指導でどう伝えればいいのか分からなかったのも、枕詞を使っていききたいと思う
- ・ 自ら勉強しようとしないうちの後輩にどのように声を掛けたらよいか。コミュニケーションの取り方、態度、今の若い人達への対応の仕方について改めて学ぶことができた
- ・ 自己肯定感の低い後輩に自信を付けさせたい、キャパを広げてあげたい
- ・ 来年プリセプターとなることが決まっているので受けて良かった
- ・ コーチングのあり方・実践・言葉かけ、少しずつ意識して言葉かけをしていく
- ・ プリセプターをしているが、どういう風に関われば良いのか分からなかった。研修を受けて、新人の人のほめ方などが分かり、病棟で実践しようと思った
- ・ 主任として上（病院や病棟の方針、師長）とスタッフの間で対応に悩むことが多い。すぐできるかは自信ないが、伝え方が大切なのは学べた
- ・ 新人・後輩に対するコミュニケーションの取り方はなんとなく理解できるが、自分の言いたいことが上司に伝わらない
- ・ 後輩ではなく、上司や医師に対する対応方法。気持ちよくない対応をされた時の気持ちの持っていき方
- ・ 新人よりも年齢とプライドの高い看護師に有効的なコーチング。自己評価が高く、人の意見を聞き入れないスタッフ…。同じチームのメンバーとしては、上司にはこういう人にも正しくコーチングしてほしい
- ・ 分かっているけどまとも相手に伝わりにくい説明になる。アセスメントが苦手。相手の思いが強く、理解できていないのにできた感を出してきて困る。納得せずくっつかかってくる… Iメッセージで伝える
- ・ こちら側（支援者）が良かれと思っていることがお節介になっていないか、どこまでは「指導」とするか
- ・ コミュニケーションの大切さ
- ・ スタッフとのコミュニケーション。ラポールが形成できるように努力する
- ・ とにかく質問をしてこない後輩に対して、どうで言ってもお節介かなと思ってなかなか声をかけづらいが、ラポール形成を心掛けたいと思う

- ・コミュニケーションにおいて苦手意識があるので、勉強になった。実践したいと思う
- ・実際にフォローしてあげられているか不安。言葉かけに注意してコミュニケーションを図ることが大切だと学んだ
- ・コミュニケーションの難しさはあるが、対処法や関わり方を学べたのでコミュニケーションの知識が増えて良かった
- ・チーム内で不和があること。その人は先輩なのでなかなか注意しづらい。聞くこと・話すことのスキルはヒントになりそう
- ・目上の人（高齢の方）や後輩との話し方について、すぐに実践できることを学んだ
- ・話す前に名前を呼んで、コミュニケーションをとることを意識していきたい
- ・相談をされた時のアドバイスや解決方法を、もっと幅広く伝えられるようになりたい
- ・後輩や新人指導に関わることは現部署ではないが、先輩に対する依頼や言い難いことを伝える時に活用できそうだった
- ・言い難いことを伝える枕詞を学べたことで、後輩育成に役立った
- ・言いにくいことを相手に伝える、言葉の使い方を学ぶことができた
- ・言いにくいことを伝える、自分の感情を伝えるのが苦手
- ・苦手な相手に対する言葉掛け、勉強になった
- ・看護師9年目で何も強みがないと感じていたが、手を使うケアととことん向き合っていこうと思った
- ・時代や年月が経ち、医療が進化しても後輩に伝える看護は変わらないと感じた。手をあてること、気持ちに寄り添うこと、看護師としての優しさや相手を尊重する姿勢を改めて学んだ
- ・コロナ病棟に応援に行った時、感染対策で手も顔も患者さんに見せられず、室内にいるのも限られ、対応に戸惑ったことがあった。そんな中での **TE-ARTE** はどうすればよいのかと思った
- ・患者さんに寄り添いながら他スタッフとも関係をよくしながら、仕事をしていきたいと思う
- ・後輩たちに看護の視点について、改めて自分が伝えられることを考えたいと思う
- ・部署のスタッフに対し、自分が日頃全員に十分な声かけができていないと感じているため、聞くための声かけ、相手にとってより良い声かけを意識したい
- ・病棟で新人や若手をほめている場面が少ない気がする。自分から進んでコミュニケーションを取っていききたいと思った
- ・多忙のため患者さんとゆっくり関われなかったり、後輩への指導も“自分がした方が早い”となってきちんとできていなかったり。研修を生かして関わっていききたいと思ったので、焦らず余裕を持って関わりたい
- ・業務に追われながらも患者さんと関われるようにしていきたい
- ・自分がしたい理想とと思っているケアと実際のケアの差。身体ケアがメインになっている
- ・看護の役割、業務内容について疑問を感じている毎日。川嶋先生の講演を聴くことで励まされた
- ・業務に追われ患者さん1人ひとりと向き合う時間が少ないと感じる。「看護」とは何か、改めて気づくことができる講演だった。「手を用いたケア」を看護にきちんと取り入れていきたい
- ・きっちり仕事をしていたら、患者さんと向き合っていたら、時間内に終わらない。病棟全体で“気付く力・アセスメント力”が低下している。看護でなく業務になっている
- ・忙しすぎて看護をしているのか医者の助手なのかが分からなくなることがある。自分の気の持ちようでも現状は変えていけると思った
- ・業務に追われ“患者さんにとってどうなのか”ということを感じながら、細かな配慮が行き届いていないことがある。倫理的問題を病棟全体で話す機会を作っていくことが必要であると改めて感じた

- ・ 育児をしながら仕事をしている状態だが、仕事の方が忙しく、また患者さんと過ごす時間が少なく、自分のやりたい看護と離れていると感じることがある
- ・ ケアが好きになれないこと。ケアで患者が回復することを考えると好きになれそう
- ・ 年齢を重ねて新しいことが覚えられない。覚えてもすぐに忘れる
- ・ 褥瘡になってしまう患者がいる。体位変換には圧抜きを忘れないよう手当をしていこうと思った
- ・ 認知機能低下、不穏や危険行動を繰り返す対応をしながらの他の業務との兼ね合い
- ・ 看護師の仕事がいつまでするか
- ・ 自分にも自信がないので勉強になった
- ・ 悩みがないことが悩みだが、更なる学習意欲が高まった

4. 今後勉強したいこと・希望する研修内容等、また希望する講師もあればご記入ください。

- ・ 川嶋みどり先生の講演をまた聞きたい
- ・ 更なるコーチングについて、人間心理学
- ・ コーチングについて更に学びたいと思った
- ・ リーダーシップ
- ・ マネジメント研修。鴨頭よしひとさん
- ・ 看護を潔く極めた先生の話
- ・ 各ステージで求められる能力について
- ・ 他者へのプレゼン方法
- ・ 新人・後輩への教育、業務改善、リスク
- ・ 交渉術について
- ・ スタッフのモチベーションアップ
- ・ 道又元裕先生のお話を聞いてみたい
- ・ 管理者のメンタルヘルスについて。皆さんどのようにコントロールされているのでしょうか？
- ・ アンガーマネジメントについて勉強したい
- ・ 医療安全(2)
- ・ 特定医療行為について知りたい
- ・ 創傷処置、認知症について
- ・ 褥瘡や皮膚トラブル、またスキンケアの基本など学びたい
- ・ 認知のある患者、寝たきりの患者への対応について
- ・ 認知症の看護・精神ケア、看取りについて学びたい
- ・ 精神科に関すること
- ・ カンファォータブル・ケア、心理学、ユマニチュード
- ・ アルコール依存症
- ・ 認知機能低下、不穏や危険行動を繰り返す対応をしながらの他の業務との兼ね合い
- ・ コミュニケーション力の向上、認知症ケアの看護、在宅医療と病院の連携など
- ・ コミュニケーションスキル、行動心理学、認知症の人の具体的な対処法など知りたい
- ・ 上司へのコミュニケーション方法。上司が自分の意思をきちんと理解してくれる方法
- ・ 患者への直接的なケアへの勉強をしていきたい
- ・ 食事を食べてくれない患者対応。栄養管理
- ・ 若い上司との関係づくり
- ・ がん看護・がん患者とのコミュニケーション
- ・ 倫理について(2)
- ・ Web研修（院内研修）であれば、いろいろな研修に参加したい

5-①. 今回のハイブリッド開催はいかがでしたか？ 参加された感想やご意見をぜひお聞かせ下さい。

- ・ 良かった・大変良かった(3)
- ・ 特に問題はなかったと思う
- ・ 良かった。便利
- ・ ハイブリッドがあるため参加しやすかった
- ・ 安心して受講できた
- ・ 安心してたくさんの方と関わって良かった
- ・ 参加方法が選択できるので、ハイブリッド開催はありがたい
- ・ 今のような世の中でもたくさんの方が参加できるので良かった
- ・ 少なくともはなっているが、やはりコロナも気にはなるので、ハイブリッド開催はとてありがたい。自宅で受けられてよかった。大きなトラブルもなかった

- ・ コロナなのでこういう形になるのは理解しているし、今後もこれで良いと思う
- ・ コロナ禍の中、ハイブリッド開催はとても良かった。会場の外からでも研修を受けられる、コロナ禍でなければこの開催はなかったのではないか。病院内のスタッフと共有できて良かった
- ・ Zoom で問題なく講義に参加できて良かった。現地まで行けなくても参加できるのはありがたかった
- ・ Zoom でもスムーズに講演を聞くことができたので良いと思う。会場までの移動時間もないので
- ・ 感染症対策、勤務先で仕事ができ、時短でメリットがあった。雨の中遠い研修会場まで行く時間が節約できた。今後もハイブリッド開催してほしい
- ・ 会場までの移動がない・行かなくてもいいので、参加しやすいと思う(4)
- ・ 現地まで行かなくても受講できるのはよい。現地でできるようになるといいが・・・
- ・ 現地に行かなくてもしっかり学習できるため、良かった・とても勉強になった(2)
- ・ Zoom で参加したが、声も聞き取りやすく良かった ・通信障害もなく聞き取りやすかった
- ・ Zoom での参加だったが、分かりやすく、何不自由なく参加することができた
- ・ Zoom 参加だったが、電波が悪いこともなくスムーズで、内容も勉強になった
- ・ Zoom も滞りなく環境が整えられ、貴重なお話を聴くことができありがたい
- ・ Zoom で研修に参加するのは初めてだったが、良かった。久しぶりに参考になる研修だった
- ・ とても聴きやすく、会場の方の発表も聞くことができ良かった
- ・ パワーポイントが画面に出ていて見やすかった ・違和感なくできた
- ・ スムーズで、ワークにも参加しやすかった
- ・ ブレイクアウトルームで他病院の人と話ができ楽しく参加できた
- ・ 知らない人と対面ではなく、Zoom を通して1対1で話をするのでいいと思う
- ・ ハイブリッドに初めての参加だった。ブレイクアウトルームも初めてだったが、問題なくできてよかった。現地に行けないときにすごくいいと思った
- ・ グループワークがしにくいかなと初めは感じたが、同じグループで短時間ずつというやり方が良かった。会場に直接行きたかったがコロナをまだまだ警戒しており残念だった
- ・ Zoom 参加でも意見交換し、共に学んでいる環境だったので内容がとても入りやすかった
- ・ 途中、通信が乱れたり、操作方法が分からずご迷惑をおかけしてしまった
- ・ スムーズな対応で、トラブルも少なくとても良かった。しかし、個人で参加されている方だと通信費がかかるため休憩中はZoom をオフにしたかった人も居たのではないかと
- ・ Zoom でのグループワークは難しかった(慣れるのかも知れないが)
- ・ Web でもスムーズに研修ができたが、他の周りの方の反応が分からないのが残念だった
- ・ グループから戻った時、会場では話が進んでいたから課題でなにが求められているか分かりにくい時があった
- ・ 2人で話をしている時の時間がわかりにくい ・質問や発表がしにくいと思った
- ・ 分からなかったことの質問がしにくい(聞き取れなかったこと)
- ・ 少し発言のしにくさを感じる。講師の方の表情を見ながら参加できない
- ・ パワーポイントを指されていたが、画面上反映されていなかった
- ・ 時間の使い方が良かった。「ここ」と指された所が少し分かりづらいように感じた
- ・ 会場以外で受講できて良かった ・病院内で受講できるので受けやすかった
- ・ 院内で受講できると便利 ・病院で受講できたことはよかった
- ・ 院内受講だったが、特に障害もなく良かった
- ・ 1人では参加しづらいが、病院での参加だったので参加しやすかった

- ・ 全体的な雰囲気はつかみにくいですが、職場での参加だったので参加しやすかった
- ・ 病院内での参加。実習を交えながら、意見交換等も行いながらの研修でとてもよかったと思う
- ・ 自分で Zoom で行うのは慣れていないので、何かあった時に困るが、病院で集まって行ったので安心して参加できた
- ・ グループワークの時に他の方の様子が分からなかったのが、会場の様子が見えたら良かったかなと思った
- ・ 会場まで参加しにくい場合、職場にいながら他施設・他職種との参加ができることは、意見交換やグループワークで色々な意見が聞けて勉強になった
- ・ 緊張せず参加することができて良かった
- ・ リラックスして受講することができた
- ・ どうしても途切れてしまうことがあるので仕方ないかと思うが、聞き取りにくかった
- ・ 実際の会場で参加したかった

(会場参加)

- ・ とても良かった・大変良かった・良いと思った(3)
- ・ 多く参加できるので良い
- ・ 少数で聞くことができ、圧迫感がなくて良かった
- ・ 交通の便も良く、会場に初めて参加したがきれいで気持ちよく受講させていただいた
- ・ ハイブリッドのため、人数も少なく密になることなく、安心して受講できた
- ・ Zoom でもよかったのかなと思ったが、会場に来て良かったと思った
- ・ アナログの良さも大切。Zoom は難しい。“会場での講演も大切”
- ・ 会場からの受講だったので聞き取りやすかった
- ・ 画面も大きく、会場講演と変わらずとてもよく理解できた
- ・ 聞き取りにくい部分もあったが、それぞれの良さを都合で選べたので良かった
- ・ 午前中は少し声が聞き取りにくかった

(ハイブリッド以外の感想)

- ・ 分かりやすく良かった
- ・ 事前資料もあり分かりやすかった
- ・ 手当ての意味を思い出せ、今後も活用していきたいと思った
- ・ 手の有効性や対人のスキルなど、自分の普段の行動を振り返れた。患者でもスタッフでも相手を大切にしたいと思った
- ・ コーチングの研修は、眠くならない工夫があって助かった
- ・ 自分に当てはめて、気付くこと・言ってはいけないことだったな、など気付かされた
- ・ 午前も午後も大変勉強になった。実践していく。ありがとうございました

5-②. ハイブリッド開催はどこで参加されましたか。

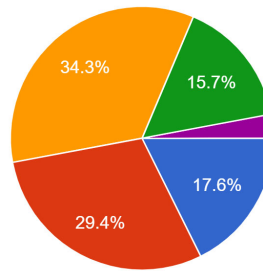
- a. 受講会場 (岡山県医師会館) (18名)
- b. 病院 (勤務先) (68名) c. 自宅 (16名)

6. 今回の研究会に参加した動機はどれですか？

- a. 病院から参加を勧められた (89名)
- b. 自分から積極的に出席した (11名)
- ・ 川嶋みどり先生の講演を聞いたかった
- c. その他 (1名) 未記入 1名
- ・ 勧められて自分で受講した

【年 齡】

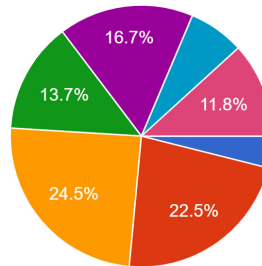
20歳代	(18)
30歳代	(30)
40歳代	(35)
50歳代	(16)
60歳代	(2)
未記入	(1)



- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳代

【勤務年数】

～5年未満	(4)
5年～10年未満	(23)
10年～15年未満	(25)
15年～20年未満	(14)
20年～25年未満	(17)
25年～30年未満	(7)
30年～	(11)
未記入	(1)



- 5年未満
- 5年～10年未満
- 10年～15年未満
- 15年～20年未満
- 20年～25年未満
- 25年～30年未満
- 30年以上